

## 「OB・OG 有志による沖縄尚学の第三者委員会設置の要望」に関する新聞報道を受けて

11月7日付けの地元紙に、沖尚理事長に対する提訴を受けて「第三者委設置」を求める要望書が理事長宛に提出されたとの記事が掲載されました。これをうけまして、学校法人尚学学園理事長として、コメントをさせていただきます。

まず、「署名は現役生が安心して教育を受けられる環境の確保」を目的としているとの点ですが、現在、尚学学園の在籍生約2000人は、日々、平穏な環境で、安心して勉学や課外活動に励んでおります。そして高校3年生におきましては、年末年始にかけて受験が本格化して参ります。

そのようななか、今回の署名の提出とその事実を報道機関に伝えられたことは、平穏な環境で勉学に励む生徒やその保護者、提訴を受けてざわつく環境のなか必死に学内の平穏を守ってくださっている教職員その他の関係者に対し、とても大きな影響を与えることとなりました。そのため、学園の運営を心配してくださるOB・OGの皆様のお気持ちには率直に感謝申し上げるものの、このような生徒や関係者を不安に陥れかねない手法による申入れにつきましては、大変残念に思っております。

なお、署名活動をされたのは尚学学園のOB・OG有志が中心とのことでしたので、学園の正式な同窓会である「尚友会」の会長に関係性を確認致しましたところ、尚友会の総意ではないということでした。また、現在の学園幹部による経営に不適切な点がないことは、沖縄県が提訴を受けて調査をし、確認がなされておりますことから、私ども幹部が一時であれその職務を停止するということは現在は考えておらず、この点についてもご安心頂きたく存じます。そして、第三者委員会の設置についてですが、既に裁判が始まっているため、これを設置すると、裁判所と第三者委で事実解明の対象が重なってしまい、混乱に拍車がかかる危惧が指摘されておりますため、現時点においては、慎重に判断する必要があると考えております。

ところで、在校生の保護者の方々の多くの声は、先生方の尽力により平穏で安心な教育環境が保たれている現在、受験を控えた大事な時期でもあることから、今回の騒動に関し、OB・OGの皆様方におかれては、静かに見守っていただきたいというものであると聞いております。学校を預かるものといしましては、在校生の学習環境を守り、また現在学園への進学を考えておられる生徒や保護者の方々の不安を少しでも取

り除く必要を切実に感じており、私自身も、そして学校全体としても、同様に静観をお願いしたいと考えております。

今回の訴訟は、大変恥ずかしながら家族内のトラブルであり、学校運営に支障をきたすものでは決してありません。尚学学園の学校運営に関し、私ども経営陣といたしましては、過去 30 年以上の学校の歴史の中で蓄積された信頼と確たる方針、信念、そして大きな自負があります。

在校生の皆様、保護者の皆様、その他関係者の皆様には、いろいろと心配をおかけして大変申し訳ありませんが、学校の運営には全く影響ございませんのでご安心いただけると幸いに存じます。進学実績の向上により注力すること以外、今後も学校運営方針を大きく変えることは全く考えておらず、IB、空手、ボランティア等については、これまでどおり当然に継続します。

これまで尚学学園は、多くの方々に多大なる応援をいただきながら、大きく発展してまいりました。今後とも支え甲斐のある学園づくりに邁進いたしますので、ご支援、ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

**学校法人尚学学園 理事長 名城政次郎**